

基本目標評価調書【案】

基本目標	5 スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進
------	---

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	選手が県内を拠点に活躍するとともに、引退後も指導に携わるなどの好循環が創出されています
施策の展開	1 トップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進 2 地域スポーツと企業・大学との連携

■ 評価

1 施策の達成状況

取組の主な成果の状況(27年度実績)

<p>○有望な選手が在籍する県内の企業・学校に訪問し、選手の競技活動のための環境整備について要請した。(合計67内訳:学校44、企業6、官庁2、クラブ13、病院2、専門学校1(H26:75))</p> <p>○「長野県広域スポーツセンター指導者派遣事業」において、総合型スポーツクラブの活動の充実と活性化を図るため、元オリンピック等トップアスリートを県内の総合型クラブへ派遣した(のべ4名)。 ※2名(敬称略):野口京子(バレーボール)2クラブ、丹羽洋介(サッカー)、酒井浩文(競歩)</p> <p>○スポーツ界における好循環創出の方策を検討するために、トップスポーツ選手を受け入れている企業・団体の実態、現役引退後の選手を受け入れている企業・団体の実態等について情報収集を行い、長野県としての支援策について検討した。</p> <p>○(一社)長野県経営者協会へ「アスリートの就職支援」について、現状説明と協力依頼をした。</p> <p>○JOC「アスナビ」説明会を開催した。5/20(水) 県庁講堂 参加者62名(55団体、44企業) 就職希望アスリート4名</p> <p>【進捗度】 努力を要する</p>
--

2 課題と今後の取組方針

<p>【課題】</p> <p>○国体で活躍できるレベルの本県出身選手が、大学卒業後も競技生活を続ける場合その多くは県外へ就職している。</p> <p>○県内での就職を希望するアスリートが存在することや採用に関する認識が県内企業に不足している。</p> <p>○トップアスリートを活用したスポーツによる地域活性化を図る必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】</p> <p>○JOC「アスナビ」説明会(就職支援制度双方向型マッチングシステム)について、その仕組みを理解し、長野県版の構築について検討する。</p> <p>○県内企業にアスリートの現状(競技継続のために他県へ就職、もしくは競技を断念)の理解を深める。長野県版「アスナビ」のイメージを関係者へ周知するとともに長野県版「アスナビ」説明会を開催する。</p> <p>○県内企業に就職し、競技を継続している選手について、その雇用形態と練習環境等の情報収集を行う。</p> <p>○選手の立場から、雇用形態(一社雇用、複数社との競技活動資金支援契約、派遣社員契約等)や勤務条件(年次休暇等)についての研究を行う。</p>

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

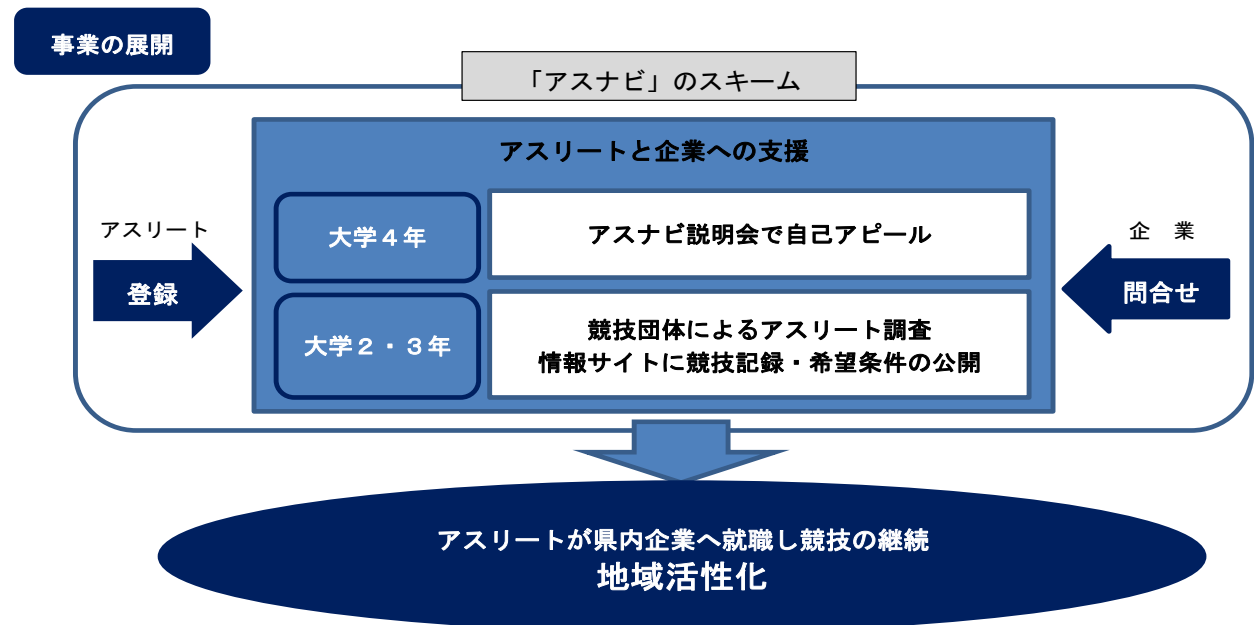
【評定】県の評価は である。

1 企業・学校訪問

- 1 目的 スポーツ振興と競技力向上のため、国民体育大会等に出場予定の選手及び監督等の所属する企業・学校等を訪問し、活動支援を依頼するとともに、強化の現状や環境などについて把握し、必要に応じて助言を行う。
- 2 実施日 平成27年5月15日～5月29日
- 3 訪問数 合計58ヶ所（総数：企業6 学校46 クラブ13 官庁2 病院1 専門学校1）

2 アスリート就職支援事業（長野県版「アスナビ」）

施策の方向性 県内企業を対象とする長野県版「アスナビ」の仕組みを構築することで、地域で活躍できる環境を整え地域スポーツの好循環を創出



- 事業内容**
- アスナビ情報サイトの開設
国体での活躍が期待できる選手の競技成績・就職希望条件等を Web で公開
 - アスナビ説明会の開催
(一社)長野県経営者協会支部総会に併せて開催 県内4会場
 - ・「アスナビ」採用企業事例紹介、メダリスト応援スピーチ
 - ・就職希望アスリートによるプレゼンテーション（1会場4～6名）
 - ・選手と企業関係者の懇談会

アスリートが県内企業に就職することによる効果

